

第 51 話〈花見の写真〉の要約と参考資料

第 51 話〈花見の写真〉の要約

朝日新聞記者だった私は 1972 年 3 月、川田時代の労働者と家族の記念写真 2 枚に写っている 82 人の病歴・死因を追跡しました。「呼吸器疾患にかかった人、死んだ人が多い」ことを示した記事は、九大の倉恒匡徳教授から「困難をやりとげた」と評価されました。

第 51 話〈花見の写真〉の参考資料

5 1 - 1 九州大学倉恒匡徳教授の土呂久現地調査

西日本新聞記事（1972 年 1 月 25 日）

土呂久にメス 九大医学陣が現地調査

〔高千穂＝宮崎県〕 『過去 50 年間も眠ったままになっていた土呂久公害の因果関係を突きとめよう』と九州大学医学部の公衆衛生教室（倉恒匡徳教授ら 3 人）は 24 日、廃鉱公害が発生した宮崎県西臼杵郡高千穂町の土呂久鉱山跡に乗り込んだ。同公害に大学医学陣の本格的なメスが入れられるのは初めてのこと。公害究明に大きな成果が期待されている。

倉恒教授らがこんど行なうのは同鉱山の過去から現在までの被害状況や環境などを詳しく調べる疫学調査。予定ではこの日から 3 日間、いちおうの予備調査を行ない、これに基づいて本格調査にはいる。調査項目は①鉱山②土呂久の自然環境③住民④その他資料、など。

同教授らはさっそくこの日朝から地元の高千穂町役場、同保健所、こんどの公害が表面化するきっかけをつくった岩戸小などを訪れて回った。地元側はどこも同教授らの調査に大喜び。役場や保健所では、さっそくコピーした資料を手渡すところもあり、こんどの積極的な協力を約束した。

午後からは雨の中、土呂久地区の被害者宅を回り、被害の状況やからだのぐあいなどを聞いた。鉱口のすぐ近くに家がある佐藤操さん（38）方では、妻ツルエさん（49）から煙害が年輪にきざまれた杉の切片、長さ 3、40 センチまでしか育たなかった 5 年前の稲わらなどを見せてもらった。これには同教授も、さすがにびっくりしたようす。同鉱山跡の鉱さいの山、鉱口、事務所跡も入念に調べた。

同教授は初日の調査を終わって『原因を突きとめるのが最終的な目的だが、それ以前に実態を正確につかみたい。ここは山と山の間が予想より、はるかに狭く、これが原因を大きくしたと考えられる。亜硫酸が、すべての原因のようにいわれているが、このほかにもいろいろなものが混じった“複合汚染”の可能性が大きい。現在、地底や歴史に眠っているものをも掘り起こして、一日も早く患者救済の道をさぐりたい』と言っている。

5 1 - 2 2 枚の写真が見つかった経緯

齋藤正健録音テープより

野村勉 九大の倉恒先生が訪ねてきた。アルバムを見せると、大正 13 年春と昭和 8 年の写真（多数が写っている記念写真）をみて、この写真をもとに調査したいので送ってくれないか、と言われた。アルバムからはがして、複写を 2 枚作り、1 枚を倉恒先生、1 枚を鶴野秀男さんに送った。アルバムには、川田平三郎と竹内勲が写った坑内の写真もあった。

齋藤正健 朝日新聞にも送ったか？

野村 いや、私が送ったのは 2 か所だけ。新聞のことは知らない。

秀男 倉恒先生が訪ねて来たとき、野村勉さんから手紙をもらったばかりだったので、精製焼きをしていた野村弥三郎さんの子どもが佐伯にいる、と話した。倉恒先生は、福岡に帰る途中、佐伯に寄ってみようと言っていた。

佐藤鶴江 土呂久の問題が報道されるのを見て、なつかしくなったからと、私も手紙をもらった。うれしかった。

田中哲也著「鉾毒・土呂久事件」P69~73 より

ここに 2 枚の写真がある。1 枚は大正 13 年、もう 1 枚は昭和 8 年に、いずれも土呂久鉾山で撮影されたものである。鉾山の労働者とその家族が写っている。この写真は当時鉾山で課長をしていた野村弥三郎という人の息子の勉さんから、鶴野秀男さんのところへ送って来たのを複写したものである。弥三郎という人は、昭和 8 年にこの写真を撮ったあと郷里の大分県佐伯市に帰った。そして間もなく死んだ。土呂久を去る時、勉さんは中学生で、秀男さんより 5 つか 6 つ年上だった。

土呂久鉾毒事件が全国に報ぜられた 47 年 1 月末のある日、勉さんから秀男さんの母親クミさん宛てに次のような手紙が届いた。

(略)

2 枚の写真は、この手紙のあとを追っかけるように送られて来た。大正 13 年の写真には桜の花らしきものを持った人が写っており、花見の時に撮影したものらしい。昭和 8 年のものは、クミさんたちの話によると、お別れの写真ということである。2 枚の写真のいずれも中央に座っているのが当時鉾山を経営していた川田平三郎という人で、このような集りごとがある時、いつも 4 キロほど離れた岩戸から写真屋を呼んでいたという。鉾業権者は昭和 8 年の写真に写っている竹内勲という人の父で竹内令さくという山口県出身の地主だった。川田所長は昭和 8 年になって鉾山の経営をやめ、同郷の野村課長とともに佐伯市へ引き揚げる。その送別会の時撮ったのがこの写真だという。その後間もなく鉾山は中島飛行機の系列会社買い取られる。その頃から垂ヒ焼き窯の施設も拡張され、鉾毒はいつそう激しさを加える。

5 1 - 3 写真追跡の記事

朝日新聞宮崎版記事（1972年3月4日）

この現実 土呂久鉱害 二枚の写真を追って

二枚の写真がある。大正13年と昭和8年の西臼杵郡高千穂町土呂久鉱山。当時の鉱山労働者とその家族が写っている。半世紀昔ののどかにみえる鉱山。だがすでに、亜ヒ酸製造過程で発生した鉱害は、この人たちの健康をむしばんでいた。写真に写った一人一人の半世紀の歳月を追跡してみると、ヒ鉱を焼く煙の恐ろしさが明らかになるだろう。

2月はじめ、大分県佐伯市東中区、公務員の野村勉さんは2枚の写真を持って土呂久を訪れた。幼少年期の11年間、鉱山で育った野村さんは、土呂久鉱害の記事を読み、たまらなくなってきたという。

「父母は長年土呂久に住んだ関係で、肺結核に似た症状で死んだ」。野村さんの両親は亜ヒ酸の犠牲者なのだ。

(略)

2枚の写真に顔を見せている人は延べ93人。このうち経営者の川田平三郎さん、川田夫人、娘のヨシエさん、鉱業権者竹内令さくさんの長男勲さんを除き、どちらの写真にも写った人を1人に数えると、労働者とその家族は82人になる。その中で名前が確認できたのは60人。生存者は直接本人から、死亡者はその家族から証言を聞くことにして60人を追跡した。

(略)

今回の追跡調査の結果、亜ヒ酸製造に従事した労働者と鉱山周辺に住む家族に、呼吸器疾患が多い傾向を指摘できそう。こうした傾向と亜ヒ酸はどんな関連があるのか。今後調査されるべき問題だろう。因果関係の立証はともかく、被害者は病気を亜ヒ酸のせいだと感じとっていたようだ。

「今さらおそい。死んだもんはもどらん」という声もあちこちで聞いた。ヒ素中毒の診断が大正14年になされていた事実もわかった。佐藤十市郎さんが実雄さん、佐藤近市さんらを連れて三井炭鉱に行ったときのことだ。採用を決める前に健康検査があった。一緒にいた佐藤岩男さんは一人はねられた。診察した医者は「ヒ素中毒だ」といった。岩男さんはその何年か前から亜ヒ酸焼きに従事し、からだ中にヒ素斑点ができていた。50年近い昔のことだ。

5 1 - 4 倉恒匡徳教授から川原への手紙（1972年3月15日）

川原一之様

3月8日付のお手紙ならびに同封していただいた新聞切抜きを有難く、かつ深い感銘をもって拝見いたしました。誠に感嘆のほかありません。

私共も過去の事実を明らかにするために追跡調査を計画しましたが行なっておりません。別の調査方法があることに気付き、現在はそれを行なっています。しかし追跡調査の重要性は十分認識しております。土呂久の場合は過去の住民、従業員の追跡はとりわけ困難ですが、やる意味が大いにあり、それをたとえ一部分であってもやりとげられた貴方に衷心から敬意を表します。

結果は大いに参考にさせていただきます。又宮崎に出向く折、お目にかかってよりくわしい御説明、御苦心談をうかがいたいと思っております。

お礼まで

倉恒匡徳拝

5 1 - 5 大正 13 年花見の写真の追跡調査結果

田中哲也著「鉋毒・土呂久事件」の表を一部修正（生存者年齢は 1972 年 3 月 1 日現在）

□垂ヒ焼き従事者（6 人）

氏名	死亡時年齢	生存者年齢	働いた期間	死因	疾患	出身地
野○弥○郎	55 歳		15 年間	不明	肺結核に似た症状	佐伯
佐○シ○ノ	56 歳		7 年間	肝硬変		土呂久
鶴○政○	50 歳		8 年間	慢性気管支炎	ぜん息	近隣村
甲○市○	43 歳		10 年間	不明	じん肺	近隣村
佐○巖	不明		7 年間	不明	ヒ素中毒	土呂久
野○弥○治	38 歳		2 年間	急性肺炎	咳がひどかった	佐伯

□団子作り従事者（5 人）

氏名	死亡時年齢	生存者年齢	働いた期間	死因	疾患	出身地
佐○シ○ノ	72 歳		18 年間	不明	ぜん息	近隣村
佐○シ○	78 歳		6 年間	肺結核又は 気管支拡張症	咳がひどかった	土呂久
小○原イ○ノ		76 歳	8 年間		高血圧、色素沈着	土呂久
甲○ヨ○	52 歳		14 年間	気管支ぜん息	ぜん息	近隣村
鶴○ク○		70 歳	8 年間		皮膚角化、 色素沈着など	近隣村

□採鉋従事者（8 人）

氏名	死亡時年齢	生存者年齢	働いた期間	死因	疾患	出身地
佐○竹○	66 歳		8 年間	気管支ぜん息	ぜん息	近隣村
佐○喜○衛○	52 歳		8 年間	不明	咳、嗄声、黒皮症	土呂久
佐○百○	61 歳		8 年間	不明	ぜん息、肝臓の病	土呂久
富○砂○郎	66 歳		12 年間	心臓麻痺	咳、手足にこぶ	土呂久
佐○繁○郎	不明	不明	10 年間	不明	胸の病気	？
富○勝○郎	53 歳		10 年間	脳卒中	脳膜炎	土呂久

佐○年○	70 歳		16 年間	肺化膿症	じん肺	土呂久
佐○実○		64 歳	6 年間		ぜん息、神経痛	土呂久

□その他、鉱石運搬などの従事者（6 人）

氏 名	死亡時年齢	生存者年齢	働いた期間	死 因	疾 患	出身地
佐○十○		63 歳	2 年間			土呂久
佐○繁○		63 歳	2 年間		胃腸病	近隣村
佐○近○		62 歳	2 年間			近隣村
佐○ハ○エ		59 歳	6 年間		眼病、ぜん息	土呂久
佐○サ○キ	24 歳		数年	不明	肺結核に似た症状	土呂久
佐○ツ○ミ	28 歳		数年	不明	肺結核に似た症状	土呂久

□家族（7 人）

氏 名	死亡時年齢	生存者年齢	住んでいた所	死 因	疾 患	出身地
佐○ヨ○	不明		鉱山北 500m	不明		土呂久
野○カ○	65 歳		鉱山事務所	不明	肺結核に似た症状	佐伯
佐○正○	39 歳		喜右衛門屋敷	心臓衰弱	肺結核に似た症状	土呂久
富○友○	25 歳		鉱山長屋	戦死	眼病、ぜん息	土呂久
佐○鶴○		51 歳	鉱山長屋		眼病、ぜん息、色素沈着など	土呂久
富○マ○エ	3 歳		鉱山長屋	不明	急性肺炎、咳	土呂久
鶴○秀○		48 歳	鉱山長屋		目、歯、色素沈着など	近隣村

*労働者（25 人）の出自

佐藤利喜治の子孫

佐藤喜右衛門（利喜治の長男）の親族：5 人（佐○シ○ノ、佐藤喜右衛門、佐○百○、佐○サ○キ、佐○ツ○ミ）

富高砂太郎（利喜治の孫）の親族：5 人（佐○シ○、小○原○セ○、富○砂○郎、富○勝○郎、佐○ハ○エ）

土呂久・畑中組：4 人（佐○巖、佐○年○、佐○実○、佐○十○）

近隣の村

皿糸・鶴野政市の親族：3 人（鶴野政市、鶴○ク○、佐○竹○）

甲斐市蔵の関連：2 人（甲斐市蔵、甲○ヨ○）

東岸寺：2 人（佐○シ○ノ、佐○繁○郎）

上野：1 人（佐○繁○）

佐伯出身：2 人（野○弥○郎、野○弥○次）

不明：1 人（佐○近○）